

サテライトシンポジウム97

最新技術がもたらす可能性
～上部内視鏡スクリーニングの質と精度を高める～

2015年の胃がん検診ガイドラインの改訂により対策型胃内視鏡検診が始まり、上部スクリーニング検査が増える中、高齢世代に胃癌高リスク群が残る現在において上部スクリーニング検査は高い精度での検査が必要とされています。この度、オリンパスより検査の質向上への貢献も期待される新型上部スコープが発売されましたので、本セミナーでは効率的かつ質の高い検査について、新型スコープの操作法などを踏まえてエキスパートの先生方より講演をいただきます。



司会
岡 政志 先生

日時 2020年11月7日(土) 17:30～18:30
会場 ポートピアホテル 大輪田C(第7会場)
司会 埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科 岡 政志 先生



リスク層別化時代の内視鏡検診
～スクリーニング検査にこそIEE、
最新の内視鏡機器を～

演者
淳風会健康管理センター倉敷
間部 克裕 先生

対策型胃内視鏡検診が導入され全国で普及が進む中、より一層の効率的で高精度な内視鏡スクリーニング検査が必要とされています。胃がんにおいては、*H. pylori* 感染やそれに伴う萎縮、肥厚性胃炎などでリスクは異なり、未感染胃粘膜に多い胃がんの特徴も明らかになっています。また、咽喉頭、食道の腫瘍もスクリーニング対象となり、喫煙やフラッシング現象、飲酒などのリスク因子が明らかとなっております。*H. pylori* 感染率の低下や除菌治療の普及もあり、今後はリスク層別化された内視鏡観察を上部消化管癌スクリーニング検査として行う必要があります。その様な時代のスクリーニング内視鏡において、最新機器やIEEが重要と思われるので、リスク層別化と最新機器という内容で間部先生にはご講演いただきます。



新型上部スコープが
検査の質を高める
～*H. pylori* 除菌時代の内視鏡～

演者
東北大学病院 消化器内科
小池 智幸 先生

上部消化管内視鏡スクリーニング検査は、日常臨床で最も多く施行されている検査であり、対策型胃がん検診として胃内視鏡検診が推奨されたことによりその重要性はより高まっています。また、*H. pylori* 除菌例、陰性例の増加により診断に難渋する例が増え、より高い精度の検査が求められるようになってきました。本講演では、小池先生に新型極細系内視鏡と新型拡大内視鏡が上部消化管スクリーニング検査から精査においてどのような価値をもたらすかについて、実臨床におけるコツを含めてご講演いただきます。

イベントスケジュール

11/6 (金)	12:30 } 13:40	ランチョンセミナー50 会場：神戸国際展示場 2号館 3A(第3会場)
		腹腔鏡手術：合併症回避のbest practice ～胃切除術・結腸切除術における隣周辺の攻略法～ 【司会】内藤 剛 先生 (北里大学医学部 下部消化管外科学) 【演者】赤川 進 先生 (北九州市立医療センター 外科) 【演者】植村 守 先生 (大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座 消化器外科学)
11/6 (金)	17:30 } 19:30	サテライトシンポジウム83 会場：ポートピアホテル 大輪田A(第5会場)
		Change the Future! ～革新的システムが可能にする新未来～ 【司会】斎藤 豊 先生 (国立がん研究センター中央病院 内視鏡科) 【司会】炭山 和毅 先生 (東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座) 【演者】矢野 友規 先生 (国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科) 【演者】上堂 文也 先生 (大阪国際がんセンター 消化管内科) 【演者】玉井 尚人 先生 (東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座) 【演者】渡辺 憲治 先生 (兵庫医科大学 炎症性腸疾患センター 内科) 【演者】浦岡 俊夫 先生 (群馬大学大学院 消化器・肝臓内科学分野)
11/7 (土)	12:30 } 13:40	ランチョンセミナー69 会場：神戸国際会議場 メインホール(第12会場)
		結石治療の最前線 ～デバイスを使いこなす～ 【司会】糸井 隆夫 先生 (東京医科大学 臨床医学系 消化器内科学分野) 【演者】木暮 宏史 先生 (東京大学医学部附属病院 消化器内科) 【演者】岩下 拓司 先生 (岐阜大学大学院医学系研究科 消化器病態学)
11/7 (土)	17:30 } 18:30	サテライトシンポジウム97 会場：ポートピアホテル 大輪田C(第7会場)
		最新技術がもたらす可能性 ～上部内視鏡スクリーニングの質と精度を高める～ 【司会】岡 政志 先生 (埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科) 【演者】間部 克裕 先生 (淳風会健康管理センター倉敷) 【演者】小池 智幸 先生 (東北大学病院 消化器内科)

オリンパス
関連イベントのご案内

学会会期：2020.11.5(木)～8(日)
会場：神戸国際展示場・ポートピアホテル・神戸国際会議場



イベント当日、WEBでライブ配信を視聴することが可能です。
視聴するには参加登録が必要ですのでご注意ください。
参加登録につきましては、学会HPよりご確認をお願いいたします。

ランチョンセミナー50

腹腔鏡手術:合併症回避のbest practice ～胃切除術・結腸切除術における臍周辺の攻略法～

消化器外科領域における腹腔鏡手術は適応拡大が進む一方、手術の高度化が進み、合併症を回避するための安全な操作・テクニックに対する関心が益々高まっていると考えております。本セミナーでは胃切除術・横行結腸切除術、それぞれの術式の中で、最も繊細な操作が要求されるシーンの一つである臍周辺の郭清や授動について、硬性鏡では得られないENDO-EYE FLEXによる視野展開とTHUNDERBEATの特長を活かした授動・郭清の方法を、臨床ビデオでの症例解説を交えながらご講演いただきます。



司会
内藤 剛 先生

日時 2020年11月6日(金) 12:30～13:40
会場 神戸国際展示場 2号館 3A(第3会場)
司会 北里大学医学部 下部消化管外科学 内藤 剛 先生



腹腔鏡下胃全摘術における 臍周囲・脾門部郭清 ～フレキシブルスコープの有用性～

演者
北九州市立医療センター 外科
赤川 進 先生

臍上縁郭清の局面では「臍転がし」による視野展開が必要となります。視野展開が不十分なままエネルギーデバイスを用いると臍への熱損傷のリスクが増加し、過度な力で臍を転がすと臍被膜損傷などのリスクが増加し、それらが臍液瘻の原因になり得ると考えられています。赤川先生には、最大100度の見下ろし像が得られるフレキシブルスコープを用いて臍上縁の視野を展開した臍上縁リンパ節郭清についてご講演いただきます。



横行結腸癌に対する CMEを意識した腹腔鏡下手術手技

演者
大阪大学大学院医学系研究科
外科学講座 消化器外科学
植村 守 先生

横行結腸癌に対する腹腔鏡下手術では、臍臓等の周囲組織との複雑な解剖学的関係に加え、支配血管走行の豊富なバリエーションに応じた適切な血管処理とリンパ節郭清が必要になる事などから、比較的難易度が高いと言われています。CMEを意識した、腹腔鏡下横行結腸癌手術のポイントをご説明いただき、さらに、フレキシブルスコープの利点とTHUNDERBEATの特性を活かした腹腔鏡下手術手技についてご講演いただきます。

ランチョンセミナー69

結石治療の最前線 ～デバイスを使いこなす～

内視鏡手技を利用した胆膵疾患への取組みは、開腹手術や鏡視下手術に勝るとも劣らない治療効果を上げ、目覚ましい進化を続けています。一方で、更なる治療手技の発展には、安全確実に実施するための治療戦略に加え、デバイスに精通し使いこなすことが重要です。本セミナーでは新型StoneMaster VやLITHOTRONといった新製品の有用性に触れながら、最良な結石治療を目指すうえで抑えておくべきポイントについて、第一線で活躍するエキスパートの先生方にご講演をいただきます。



司会
糸井 隆夫 先生

日時 2020年11月7日(土) 12:30～13:40
会場 神戸国際会議場 メインホール(第12会場)
司会 東京医科大学 臨床医学系 消化器内科学分野 糸井 隆夫 先生



新型StoneMaster Vが導く、 結石治療のパラダイムシフト

演者
東京大学医学部附属病院 消化器内科
木暮 宏史 先生

結石治療において乳頭処置は必要不可欠かつ最も重要であり、多種多様な症例に見合った治療戦略を立てることが求められます。今回木暮先生には、新たに登場した、ESTナイフとEPBDバルーンを組合せたデバイスである新型StoneMaster Vについて使用経験をご紹介を頂き、乳頭処置および結石治療全般における最新のストラテジーをご講演いただきます。



その結石は本当にバスケットで 割れますか？ 困難結石症例の手技選択

演者
岐阜大学大学院医学系研究科 消化器病態学
岩下 拓司 先生

胆道鏡下結石破砕術は、2020年度の診療報酬改定での新設を受け、困難結石症例における手技選択のひとつとしてあらためて注目を浴びています。一方で、臍胆道鏡を用いた治療となることから、使用する機器の特長や有用性を理解し、適切に使い分ける必要があります。岩下先生には、胆道鏡下結石破砕術の臨床上のテクニックはもとより、困難結石症例における治療戦略、手技選択についてもご講演いただきます。

サテライトシンポジウム83

Change the Future! ～革新的システムが可能にする新未来～

近年、世界で増加する胃がんや大腸がんに対して、より高精度な発見・診断・治療が求められております。また、それに伴い内視鏡システムの技術が進歩してきており、様々なIEEや拡大技術をどのような場面で、どう使用すればいいかを迷われることもあるかと思えます。今回、約8年ぶりとなる次世代新型内視鏡システムの登場により、新技術の最適な使用方法や有用性、可能性をエキスパートの先生方に実臨床でのご経験を交えながら、ご講演をいただきます。



司会
斎藤 豊 先生



司会
炭山 和毅 先生

日時 2020年11月6日(金) 17:30～19:30
会場 ポートピアホテル 大輪田 A(第5会場)
司会 国立がん研究センター中央病院 内視鏡科 斎藤 豊 先生
東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座 炭山 和毅 先生



上部消化管スクリーニングにおける TXI・EDOFの可能性

演者
国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科
矢野 友規 先生

内視鏡検診の時代を迎え、上部消化管内視鏡スクリーニング検査の重要性は更に高まっています。がんを早期発見・診断するためには、見落としのない質の高い検査を行うことが大変重要です。矢野先生には、新技術であるTXI(構造色彩強調機能)・EDOF(被写界深度拡大技術)を活用した、上部消化管内視鏡スクリーニング検査の新たな可能性・効率的な拾い上げ診断のコツについてご講演いただきます。



EDOFによるNBI併用 胃拡大内視鏡診断への期待

演者
大阪国際がんセンター 消化器内科
上堂 文也 先生

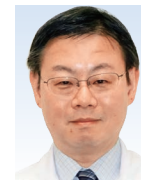
NBI併用拡大観察はスクリーニング検査で発見された胃病変に対して、リアルタイムで組織検査に匹敵する正確な質的診断の可能性を見出しました。しかし正確な拡大内視鏡診断には内視鏡画像を撮影する技術とそれを正確に診断する知識の両者が必要と言われており、特に技術において従来の拡大内視鏡は拡大倍率をあげると内視鏡画像の焦点の合う距離が極端に短くなるのが課題でした。本講演では新型上部拡大内視鏡の新たな技術「EDOF」がNBI併用拡大観察においてどのように役立つのか、使用経験を交えてご講演いただきます。



大腸内視鏡検査の新展開 ～New Breakthrough Technologies～

演者
東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座
玉井 尚人 先生

本邦では大腸NBI拡大統一分類であるJNET分類に沿った大腸内視鏡検査が普及しておりますが、ADRの向上や拡大時のピント合わせの煩雑さなど大腸内視鏡検査には多くの課題が残されています。オリンパスが新たに開発したTXIとEDOFはそれら課題を解決する新技術として期待がされており、玉井先生には使用経験を踏まえて2つの新技術の有用性や使用する際のポイントなどをご講演いただきます。



新IEEが変える潰瘍性大腸炎 サーベイランス内視鏡

演者
兵庫医科大学 炎症性腸疾患センター 内科
渡辺 憲治 先生

本邦における潰瘍性大腸炎(UC)の患者数は年々増加の一途を辿っています。UC関連癌の対象となる長期経過例も増加の一途で、早期発見による予後改善にはサーベイランス内視鏡が非常に重要です。一方で、その手技や内視鏡診断には依然として多くの課題も残されており、新たな診断技術の登場が期待されています。今回は渡辺先生より、UCサーベイランス内視鏡における新たなIEEの可能性や期待について、ご使用経験にUCサーベイランス内視鏡の情報を交えてご講演いただきます。



RDIで変える治療の最前線 ～RDIがもたらす可能性～

演者
群馬大学大学院 消化器・肝臓内科学分野
浦岡 俊夫 先生

ESDなどの内視鏡治療は施行医の技術が向上し、治療機器やデバイスの開発も相まって益々進歩してきております。しかし、施行医にはさらなる技術レベルの向上が求められており、特に困難な症例では出血予防や出血時の迅速な止血は重要となります。今回、浦岡先生から当社の新技術であるRDI(赤色光観察)を用いた、より低侵襲な内視鏡治療の可能性について実臨床でのご使用経験を交えながらご講演をいただきます。